

ボランティアの心

” ゆっくり ” と紙芝居の慰問

昨年9月シルバーカレッジ当時の「あかりの会」の仲間3人で、朗読ボランティアグループを立ち上げました。創立メンバーは、橋口勝禧さん（食14）片岡桂子さん（音14）と私。グループ名の「あんだんて」は、音文出身の片岡さんの発案です。グループのメンバーも活動の対象も高齢者ということで、“歩く速度でゆっくりと”との音楽用語を拝借したものです。

カレッジを卒業した段階で「わ」の「あかりの会」へ進む道もありましたが、人との交流好きな3人は現役の頃のようなボランティアをやりたいとの思いで、「あんだんて」を立ち上げました。

ボランティアだけでなく朗読も続けたかった



私は、昨年4月から市民福祉大学の朗読ボランティア入門講座を受講。朗読とボランティアに対する心構えを基本から学び直しました。講座終了後に朗読ボランティアグループの一つである「かたつむり」に入会。このグループがおこなっているボランティア活動と朗読練習を参考に、

「あんだんて」でも月1回、一の谷プラザの部屋を借りて朗読練習を行い、老人保健施設で紙芝居や詩などの朗読、利用者とともに懐かしい歌を歌うなどの活動を行っています。

ボランティアは自分自身が楽しくなければ長続きしません。幸い訪問先の施設利用者の方々からの「また来てね。待ってるよ」の声に力を得て、3人とも楽しい充実したひとときを過ごしています。写真＝「希望の家」での活動、左端が筆者 植村 勝（福14）

韓国テレビ局がKSC取材

長寿先進国・日本のシルバー世代の生き方をさぐろうと、韓国のテレビ局MBCのスタッフ（4人）が3月2日、シルバーカレッジを訪れました。福祉・食文・美工



の授業風景や銭太鼓クラブの練習を撮影したり、学生に話を聞いたり、終日、精力的に取材活動をしていました。卒業生のボランティア団体、グループわの活動にも強い関心をいただいたようです。急遽、里山和楽会がやっている「かがやき神戸」（北区）に足を伸ばし、雑木林の伐採や手入れ作業を熱心にカメラに収め、会員に質問を連発していました（写真）。MBCテレビの取材は、大阪・和歌山・神戸で行われ、神戸ではシルバーカレッジが取材対象に選ばたそうです。

日本の高齢者が日常をどう過ごしているか、は今や世界的な関心事。09年にはドイツのテレビ局もKSCを訪れています。

わ のホームページ衣替え

グループわのホームページ（HP）が2月27日から大きく衣替えしました。これまで運営は業者に委託していましたが、今後はわのHP委員会が全面的に運営することになり、すべての欄が登録なしに、自由に閲覧できるようになりました。

HPは平成15年4月に開設されましたが、当初は、管理すべてを委託しており、原稿1本の掲載すら大変な手間をかけていました。2年前からは、HP委員会で改善を重ね、トップページや各区会・部会・情報ぎやらりのページなどを自由に更新できるようにしていました。

ところが昨年末、業者から委託契約を解消したいとの申し入れがあり、別の業者への移管を進めていたものです。これまで、会員の皆さんが「会員用ページ」を開くには、シルバーカレッジ当時の学籍番号を登録しないとページが開けないなどの不便さがありましたが、今後はその必要がなくなりました。

わのHPを見るには、インターネットを開いて検索欄に「グループわ」と打ち込み、検索結果の上段に表示される「グループわ」をクリックするだけで、ページが開けます。わの情報収集にご利用ください。（わHP委員会）